

心理学専攻カリキュラム

心理学専攻には、臨床心理士ならびに公認心理師の養成を目的とした「臨床心理学コース」と実証的調査の専門家を養成する「心理学コース」の2つのコース設定がある。

1. カリキュラムの特色と構成

カリキュラムは、両コースともに必修科目と選択必修科目からなる。

- (1) 臨床心理学コースは、臨床心理士ならびに公認心理師養成のためのコースであり、カリキュラムは、臨床心理査定、臨床心理面接、臨床心理的地域援助などの技法を修得する実習科目と、臨床心理学のさまざまな理論と心理臨床的研究の方法を修得する科目からなる。実習科目においては、附属の神戸松蔭こころのケア・センターにおける実習や、協力施設での実習などを行う。
- (2) 心理学コースは、発達心理学と社会心理学を中心に、実験・調査といった実証的方法による研究科目からなる。
- (3) 担当指導教員から修士論文作成のための個別指導を受ける科目として、両コースとも2年次に「心理学特別研究」を設定している。加えて臨床心理学コースでは、1年次に、その準備段階としての科目「臨床心理学特別研究A・B」を設けている。臨床心理学コースは、臨床心理学を専門とする指導教員から指導を受け、心理学コースは、基礎系心理学を専門とする指導教員からの指導を受ける。
- (4) 臨床心理学コースに開設している科目には、臨床心理士養成のための専門科目があり、心理学コースの学生は受講できない科目があるので注意すること。

2. 授業科目一覧表

※前年度（2017年度）からの変更点

・新設科目

「心理実践実習Ⅰ」	通年	4単位	
「臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）」	通年	6単位	
「臨床心理実習Ⅱ」	通年	2単位	
「司法・犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）」	集中	2単位	（隔年開講）
「産業・労働心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）」	集中	2単位	（隔年開講）
「心理教育特論（心の健康教育に関する理論と実践）」	半期	2単位	

・廃止科目

「臨床心理実習」	通年	2単位
----------	----	-----

・科目名称の変更

「臨床心理査定演習Ⅰ」	→	「臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）」
「臨床心理面接特論Ⅰ」	→	「臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）」
「精神医学特論」	→	「精神医学特論（保健医療分野に関する理解と支援の展開）」
「児童臨床特論」	→	「児童臨床特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）」
「学校臨床心理学特論」	→	「学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）」
「家族療法・ブリーフセラピー特論」	→	「家族療法・ブリーフセラピー特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）」

(1)【臨床心理学コース授業科目一覧】(2018年度入学生用)

	授 業 科 目	科目 ナンバー	担当者	配当 年次	開講 区分	週 時間	単位	分類	公認心理師 カリキュラム 番号	備考
必修科目	臨床心理学特論*	MP5010	{大和田攝子(前期) 坂本真佐哉(後期)}	1	通年	2	4	必修		
	臨床心理基礎実習*	MP5020	{大和田攝子 中村 博文 木場 律志}	1	通年	3	2	必修		
	臨床心理査定演習Ⅰ* (心理的アセスメントに関する理論と実践)	MP5030	黒崎 優美	1	前期	2	2	必修	⑥	
	臨床心理査定演習Ⅱ*	MP5040	中村 博文	1	後期	2	2	必修		
	臨床心理面接特論Ⅰ* (心理支援に関する理論と実践)	MP5050	中村 博文	1	前期	2	2	必修	⑦	
	臨床心理面接特論Ⅱ*	MP5060	榊原 久直	1	後期	2	2	必修		
	心理実践実習Ⅰ*	MP5070	{大和田攝子 中村 博文 木場 律志}	1	通年	6	4	必修	⑩	
	臨床心理実習Ⅰ* (心理実践実習Ⅱ)	MP6010	{坂本真佐哉 黒崎 優美 榊原 久直}	2	通年	9	6	必修	⑩	
	臨床心理実習Ⅱ*	MP6020	{坂本真佐哉 黒崎 優美 榊原 久直}	2	通年	3	2	必修		
	心理学特別研究	MP6030	大和田攝子 坂本真佐哉 中村 博文 黒崎 優美 榊原 久直 木場 律志	2 2 2 2 2 2	通年 通年 通年 通年 通年 通年	2 2 2 2 2 2	4 4 4 4 4 4	A群 (必修)		
選択必修科目	心理学研究法特論	MP5080	{土肥伊都子 藤本 浩一 鳥居さくら}	1	通年	2	4	A群		
	発達心理学特論Ⅰ	MP5090	久津木 文	1・2	前期	2	2	B群		
	比較行動学特論Ⅰ	MP5110	待田 昌二	1・2	前期	2	2	B群		隔年開講 (2018年度不開講)
	認知発達心理学特論Ⅰ	MP5130	久津木 文	1・2	前期	2	2	B群		
	発達心理学特殊研究Ⅰ	MP5170	寺見 陽子	1・2	前期	2	2	B群		
	社会心理学特殊研究	MP5190	土肥伊都子	1・2	後期	2	2	C群		隔年開講
	社会心理学特論Ⅰ	MP5200	土肥伊都子	1・2	前期	2	2	C群		
	精神医学特論 (保健医療分野に関する理解と支援の展開)	MP5220	若栄 徳彦	1・2	前期	2	2	D群	①	
	臨床薬理学特論	MP5230	若栄 徳彦	1・2	後期	2	2	D群		
	認知行動療法特論*	MP5240	巢黒慎太郎	1・2	集中		2	E群		隔年開講 (2018年度不開講)
	グループケア特論*	MP5250	大和田攝子	1・2	後期	2	2	E群		
	児童臨床特論* (福祉分野に関する理論と支援の展開)	MP5260	榊原 久直	1・2	前期	2	2	F群	②	隔年開講
	学校臨床心理学特論* (教育分野に関する理論と支援の展開)	MP5270	黒崎 優美	1・2	前期	2	2	F群	③	隔年開講 (2018年度不開講)
	司法・犯罪心理学特論* (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	MP5280	(担当者未定)	1・2	集中		2	F群	④	隔年開講 (2018年度不開講)
	産業・労働心理学特論* (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	MP5290	(担当者未定)	1・2	集中		2	F群	⑤	隔年開講 (2018年度不開講)
家族療法・ブリーフセラピー特論* (家族関係・集団・地域社会における 心理支援に関する理論と実践)	MP5300	坂本真佐哉	1・2	後期	2	2	F群	⑧		
心理教育特論* (心の健康教育に関する理論と実践)	MP5310	(担当者未定)	1・2	後期	2	2	F群	⑨	2018年度不開講	

	授 業 科 目	科目 ナンバー	担当者	配当 年次	開講 区分	週 時間	単 位	分類	公認心理師 カリキュラム 番号	備考
選 択 必 修 科 目	臨 床 心 理 学 特 別 研 究 A * ☆	MP532A	大和田 攝子	1	前期	2	2	F群		
			坂本 真佐哉	1	前期	2	2			
			中村 博文	1	前期	2	2			
			黒崎 優美	1	前期	2	2			
			榊原 久直	1	前期	2	2			
			木場 律志	1	前期	2	2			
	臨 床 心 理 学 特 別 研 究 B * ☆	MP532B	大和田 攝子	1	後期	2	2	F群		
			坂本 真佐哉	1	後期	2	2			
			中村 博文	1	後期	2	2			
			黒崎 優美	1	後期	2	2			
			榊原 久直	1	後期	2	2			
			木場 律志	1	後期	2	2			

《注意事項》 *マークのついている科目は、他のコースの学生は履修できない。
☆マークのついている科目は、選択必修科目であるが、1年次に全員履修することが望ましい。

【臨床心理学コース授業科目一覧】(2017年度以前入学生用)

	授 業 科 目	科目 ナンバー	担当者	配当 年次	開講 区分	週 時間	単位	分類	備考	
必修科目	臨床心理学特論*	MP5010	{ 大和田攝子(前期) 坂本真佐哉(後期)	1	通年	2	4	必修		
	臨床心理基礎実習*	MP5020	{ 大和田攝子 中村 博文 木場 律志	1	通年	3	2	必修		
	臨床心理査定演習Ⅰ*	MP5030	黒崎 優美	1	前期	2	2	必修		
	臨床心理査定演習Ⅱ*	MP5040	中村 博文	1	後期	2	2	必修		
	臨床心理面接特論Ⅰ*	MP5050	中村 博文	1	前期	2	2	必修		
	臨床心理面接特論Ⅱ*	MP5060	榊原 久直	1	後期	2	2	必修		
	臨床心理実習*	MP6040	{ 坂本真佐哉 黒崎 優美 榊原 久直	2	通年	3	2	必修		
	心理学特別研究	MP6030	大和田攝子	2	通年	2	4	A群 (必修)		
			坂本真佐哉	2	通年	2	4			
			中村 博文	2	通年	2	4			
黒崎 優美			2	通年	2	4				
榊原 久直			2	通年	2	4				
木場 律志			2	通年	2	4				
選択必修科目	心理学研究法特論	MP5080	{ 土肥伊都子 藤本 浩一 鳥居さくら	1	通年	2	4	A群		
	発達心理学特論Ⅰ	MP5090	久津木 文	1・2	前期	2	2	B群		
	比較行動学特論Ⅰ	MP5110	待田 昌二	1・2	前期	2	2	B群	隔年開講(2018年度不開講)	
	認知発達心理学特論Ⅰ	MP5130	久津木 文	1・2	前期	2	2	B群		
	発達心理学特殊研究Ⅰ	MP5170	寺見 陽子	1・2	前期	2	2	B群		
	社会心理学特殊研究	MP5190	土肥伊都子	1・2	後期	2	2	C群	隔年開講	
	社会心理学特論Ⅰ	MP5200	土肥伊都子	1・2	前期	2	2	C群		
	精神医学特論	MP5220	若栄 徳彦	1・2	前期	2	2	D群		
	臨床薬理学特論	MP5230	若栄 徳彦	1・2	後期	2	2	D群		
	認知行動療法特論*	MP5240	巢黒慎太郎	1・2	集中		2	E群	隔年開講(2018年度不開講)	
	学校臨床心理学特論*	MP5270	黒崎 優美	1・2	前期	2	2	E群	隔年開講(2018年度不開講)	
	児童臨床特論*	MP5260	榊原 久直	1・2	前期	2	2	E群	隔年開講	
	グループケア特論*	MP5250	大和田攝子	1・2	後期	2	2	E群		
	家族療法・ブリーフセラピー特論*	MP5300	坂本真佐哉	1・2	後期	2	2	E群		
	臨床心理学特別研究A*☆	MP532A	大和田攝子	1	前期	2	2	F群		
			坂本真佐哉	1	前期	2	2			
			中村 博文	1	前期	2	2			
			黒崎 優美	1	前期	2	2			
			榊原 久直	1	前期	2	2			
			木場 律志	1	前期	2	2			
臨床心理学特別研究B*☆			MP532B	大和田攝子	1	後期	2		2	F群
				坂本真佐哉	1	後期	2		2	
				中村 博文	1	後期	2		2	
				黒崎 優美	1	後期	2		2	
	榊原 久直	1		後期	2	2				
	木場 律志	1		後期	2	2				

《注意事項》 *マークのついている科目は、他のコースの学生は履修できない。
☆マークのついている科目(F群)は、選択必修科目であるが、1年次に全員履修することが望ましい。

(2) 【心理学コース授業科目一覧】

	授 業 科 目	科目 ナンバー	担 当 者	配当 年次	開講 区分	週 時間	単位	分類	備 考
必修科目	心 理 学 特 別 研 究	MP6030	土肥伊都子	2	通年	2	4	} 必修	
			藤本 浩一	2	通年	2	4		
			待田 昌二	2	通年	2	4		
			久津木 文	2	通年	2	4		
選択必修科目	心 理 学 研 究 法 特 論	MP5080	土肥伊都子 藤本 浩一 鳥居さくら	1	通年	2	4	A群	
	発 達 心 理 学 特 論 I	MP5090	久津木 文	1・2	前期	2	2	B群	
	発 達 心 理 学 特 論 II	MP5100	久津木 文	1・2	後期	2	2	B群	
	比 較 行 動 学 特 論 I	MP5110	待田 昌二	1・2	前期	2	2	B群	隔年開講(2018年度不開講)
	比 較 行 動 学 特 論 II	MP5120	待田 昌二	1・2	後期	2	2	B群	隔年開講(2018年度不開講)
	認 知 発 達 心 理 学 特 論 I	MP5130	久津木 文	1・2	前期	2	2	B群	
	認 知 発 達 心 理 学 特 論 II	MP5140	久津木 文	1・2	後期	2	2	B群	
	認 知 神 経 心 理 学 特 論 I	MP5150	鳥居さくら	1・2	前期	2	2	B群	隔年開講
	認 知 神 経 心 理 学 特 論 II	MP5160	鳥居さくら	1・2	後期	2	2	B群	隔年開講
	発 達 心 理 学 特 殊 研 究 I	MP5170	寺見 陽子	1・2	前期	2	2	B群	
	発 達 心 理 学 特 殊 研 究 II	MP5180	藤本 浩一	1・2	後期	2	2	B群	隔年開講(2018年度不開講)
	社 会 心 理 学 特 殊 研 究	MP5190	土肥伊都子	1・2	後期	2	2	C群	隔年開講
	社 会 心 理 学 特 論 I	MP5200	土肥伊都子	1・2	前期	2	2	C群	
	社 会 心 理 学 特 論 II	MP5210	土肥伊都子	1・2	後期	2	2	C群	
精 神 医 学 特 論 (保健医療分野に関する理解と支援の展開)	MP5220	若栄 徳彦	1・2	前期	2	2	D群		
臨 床 薬 理 学 特 論	MP5230	若栄 徳彦	1・2	後期	2	2	D群		

3. 修了要件・単位履修方法

(2018年度入学生)

修士課程を修了し、修士の学位を取得するためには、臨床心理学コースは42単位以上、心理学コースは32単位以上を修得した上で修士論文を提出し、後に述べる論文審査に合格しなければならない。修士課程学生は、在学中に研究倫理教育の講習を受けなければならない。

(1) 臨床心理学コース履修方法

- ①必修科目30単位
- ②選択必修科目の分類A群4単位、B、C、D、E群からそれぞれ2単位以上の計12単位以上
- ③上記①、②を含み合計42単位以上を修得しなければならない。

(2) 心理学コース履修方法

- ①必修科目4単位
- ②選択必修科目の分類A、B、C群から計20単位以上
- ③上記①、②の24単位を含み合計32単位以上を修得しなければならない。

(2017年度以前入学生)

修士課程を修了し、修士の学位を取得するためには、32単位以上を修得した上で修士論文を提出し、後に述べる論文審査に合格しなければならない。修士課程学生は、在学中に研究倫理教育の講習を受けなければならない。

(1) 臨床心理学コース履修方法

- ①必修科目20単位
- ②選択必修科目の分類A群4単位、B、C、D、E群からそれぞれ2単位以上の計12単位以上
- ③上記①、②を含み合計32単位以上を修得しなければならない。

(2) 心理学コース履修方法

- ①必修科目4単位
- ②選択必修科目の分類A、B、C群から計20単位以上
- ③上記①、②の24単位を含み合計32単位以上を修得しなければならない。

4. 論文審査と単位認定の方法

論文の審査は、主査1名と副査2名で行う。主査と副査は提出された論文を査読し、口頭試問を行い、これを評価する。作成した論文の内容は学内で口頭発表しなければならない。この発表内容と応答も、論文評価の対象となる。

なお、臨床心理学コースの修士論文は、テーマと内容が臨床心理学に関するものでなければならない。

5. 修士論文 審査基準

修士論文は大学院での研究教育の成果を表すものとして、次の基準を満たすものでなければならない。

- (1) テーマの明確性：研究テーマが明確で、その意義や必要性が述べられていること。
- (2) 研究方法の妥当性：研究目的に照らして研究・分析の方法が適切であること。
- (3) 先行研究の展望：研究テーマについての先行研究が十分に理解され、検討されていること。
- (4) 論理の一貫性：論文構成が的確で、論理展開に整合性、一貫性があること。
- (5) 独創性および発展性：学術的に独創性があり、また発展性を含むものであること。
- (6) 倫理的配慮：研究方法や研究対象に対する倫理的配慮がなされていること。内容によっては神戸松蔭女子学院大学研究倫理委員会の承認を得なければならない。

提出にあたっては次の事項に留意すること。

- (1) 臨床心理学コースの修士論文は、テーマと内容が臨床心理学に関するものでなければならない。
- (2) 学術論文として適切な形式上の要件を満たしており、細部に関しては、専攻で配布する「修士論文執筆要項」に従ってなければならない。
- (3) 本人以外の知見を参照する時は適切な方法で引用し、他者の著作権を侵害するものであってはならない。

6. 臨床訓練・学修指導に関するガイドライン

(1) 【臨床心理学コース】

■重要な日程

2018年4月	M2 学外実習開始
5月	M1 実習開始（学外実習、センター実習、見学実習、等）
7月下旬～8月上旬	M2 修士論文研究中間報告会
9月26日～10月2日	M2 修士論文題目登録期間
10月	M1 ケース担当開始
2019年1月8日～15日	M2 修士論文提出期間
2月12日～28日	M2 修士論文公聴会

■教職員

授業担当教員（*臨床担当教員）

教 授	大和田 攝子*
	坂本 真佐哉*（神戸松蔭心のケア・センター所長／臨床心理学コース代表）
	寺見 陽子
	土肥 伊都子
	鳥居 さくら
	藤本 浩一
	待田 昌二
准教授	久津木 文（心理学専攻代表）
	黒崎 優美*（心理学専攻教務担当）
	中村 博文*
専任講師	木場 律志*

榊原 久直*
非常勤講師 巢黒 慎太郎
若栄 徳彦

※臨床心理学コースのゼミ担当教員となり得るのは、臨床心理学コースの「臨床心理学特別研究」担当教員のみである。

神戸松蔭こころのケア・センター

相談員 住 貴浩 (実習指導員)

大学院共同研究室

■履修について

○修了要件・単位履修方法

- ①必修科目30単位。
- ②選択必修科目の分類A群4単位、B、C、D、E群からそれぞれ2単位以上の、計12単位以上。
- ③上記①、②を含み、合計42単位以上を修得しなければならない。
- ④臨床心理学コースを修了することで、臨床心理士受験資格が得られる。一方、公認心理師の受験資格を取得するためには、「公認心理師関連科目」をすべて履修しなくてはならない。[注]
- ⑤「臨床心理基礎実習」(M1)、「心理実践実習Ⅰ」(M1)、「臨床心理実習」(M2)、等の実習科目には、神戸松蔭心のケア・センター(以下、ケア・センター)での基礎的実習、学外協力施設における実習、ケア・センターでのケース担当、スーパーヴィジョン、カンファレンスへの参加と報告、事例論文の執筆、等々の、多彩な実習、演習が含まれる。
- ⑥「臨床心理学特別研究A」、「臨床心理学特別研究B」は選択必修科目であるが、履修することを強く求める。

<M1における実習内容(「臨床心理基礎実習」、「心理実践実習Ⅰ」)>

- ・ケア・センターでの実務実習
- ・学外施設における実習(見学実習、心理検査実習を含む)
- ・ケア・センターでのケース担当(「臨床心理面接特論Ⅰ」に合格し、スーパーヴァイザーが決まり、ケア・センターの実習生として認められた者)
- ・カンファレンスへの参加と、担当ケースの報告
- ・担当ケースについて、学外スーパーヴァイザーによるスーパーヴィジョンを受ける

<M2における実習内容(「臨床心理実習」)>

- ・ケア・センターでのケース担当
- ・カンファレンスへの参加と、担当ケースの報告
- ・ケア・センター担当ケースについて、学外スーパーヴァイザーによるスーパーヴィジョンを受ける
- ・担当ケースについての、事例論文の執筆

※注：公認心理師受験資格を得るために必要となる科目は、2017年度入学生と2018年度入学生で異なることに注意すること。また、2018年度入学生については、大学院入学以前の大学学部において必要な科目を修得していることが必要である。

○履修上注意を要する点について

- ・「臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅱ)」および「臨床心理実習Ⅱ」の履修は、「臨床心理基礎実習」の単位修得後でなければ許可されない。つまり、「臨床心理基礎実習」の単位をM1の時点で修得できなかった場合には、2年間での課程修了は不可能となる。
- ・「臨床心理基礎実習」(M1配当)が金曜5・6限、「心理実践実習Ⅰ」(M1配当)が土曜2～4限、「臨床心理実習」(M2配当)が木曜1・2限となっている。履修登録は、それぞれこの時間で行うこと。また、実際の実習科目の進め方については、それぞれ担当者から聞くこと。
- ・カンファレンスが木曜10:00から行われるので、これには全員出席すること。
- ・「臨床心理査定演習Ⅱ」、「臨床心理面接特論Ⅱ」は、それぞれに対応する「Ⅰ」の科目を履修した後に履

修正しなければならない。

- ・「臨床心理学特別研究A」、「臨床心理学特別研究B」はF群となっており必修ではないが、履修することを強く求める。なお、「A」はM1の前期、「B」はM1の後期に履修となる。「A」から「B」で指導教員を替えることは可能であるが、「B」の指導教員はそのまま「心理学特別研究」（修士論文指導）の教員となり、変更はできないので、慎重に選択すること。なお、「B」で指導教員の変更希望があるかどうかについては、7月末頃調査を行う。

※「臨床心理学特別研究A」の指導教員希望調査を行う。4月6日（金）の16：30までに、大学院共同研究室へ提出すること。

※単位や履修状況については、教務課が履修チェックしてくれる訳ではないので、各自責任を持って個人で大学院要覧を確認し、注意しておくこと。

■修士論文について

- ・修士論文指導は、「心理学特別研究」において行う。具体的な指導方法については、指導教員に聞くこと。
- ・臨床心理学コースの修士論文は、そのテーマと内容が臨床心理学に関するものでなければならない。
- ・7月下旬～8月上旬には、修論中間報告会が行われる。発表はM2であるが、院生は全員出席のこと。
- ・修士論文執筆後、公聴会により審査を行う。修論そのもののみならず、公聴会における発表と質疑応答も、論文評価の対象となる。なお、公聴会も、院生は全員出席すること。

■臨床訓練について

○臨床指導責任者について

- ・ある院生の臨床指導については、指導教員がその責任を負う。したがって、よく指導教員と相談をしながら臨床活動にあたること。

○ケア・センターにおけるケース担当までの流れ

- ①M1前期の訓練状況判定：授業、カンファレンス、センター実務実習、ゼミ、等々の様子に基づいて院生ごとの訓練状況を、臨床担当教員全員で検討する。検討の結果、ケース担当が可となった場合には、以下の②以降に進む。不可となった場合には、引き続き当該院生の状況を観察しつつ、適時可不可の判定を行う。
- ②指導教員と相談の上、スーパーヴァイザーを決定する。なお、スーパーヴァイザーは、規定のリストの中から選択すること。
- ③臨床心理士有資格者が行うインテーク面接に陪席する。なお、初めて陪席に入る場合には、M2以上の経験者と組んだ上で、陪席することとする。また、陪席は、スーパーヴァイザーが決定していない場合でも可とする。
- ④陪席を少なくとも1ケース経験し、スーパーヴァイザーが決定している場合に、ケース担当が可となる。なお、実際にあるケースを担当するかどうかについては、インテーク面接担当者および指導教員と相談した上で決定すること。

○スーパーヴィジョンについて

- ・修士課程の院生、および臨床心理士資格取得前の研修生がケア・センターにてケースを担当するためには、必ずスーパーヴィジョンを受けていなくてはならない。したがって、修士課程在籍中は、必ずスーパーヴィジョンを受けること。
- ・スーパーヴィジョン代金は、50,000円までは大学が負担する。所定の手続きにしたがって支払いを受けること。

■その他

- 臨床心理学コースで取り扱う資料のうちかなりのものは、個人情報に関連するものである。そのため、厳重に保護されなければならない。USBメモリ（最低でもファイルのパスワード保護を行っておくこと）、印刷資料（印刷やコピーをする場所、原稿の置き忘れ、シュレッダー）、話をする場所（周囲の状況確認）などに十分に注意を払うこと。
- 2018年8月19日（日）に、心理学検定が行われる。臨床心理士、公認心理師の試験対策にもなるので、積極的に受験を検討すること。
- 臨床心理学コースでは、臨床心理士資格試験対策講座を開講している。今年度の具体的な内容、対象について

は、担当教員より追って連絡がある。

- 臨床心理学コースの院生は、授業、修論、臨床、実習、等々で、大変に忙しい。様々な予定が重なることもあると思われるが、優先順位を間違えないこと。優先順位は、次の通りである。

授業・大学行事 > 学外実習 > 担当ケース

- 臨床心理学コースの学生は、4月12日（木）9：00（カンファレンス初日）に、ケア・センターに集合すること。

(2) 【心理学コース】

■重要な日程

2018年7月下旬～8月上旬	M2 修士論文研究中間報告会
9月26日～10月2日	M2 修士論文題目登録期間
2019年1月8日～15日	M2 修士論文提出期間
2月12日～28日	M2 修士論文公聴会

■教員

授業担当教員

教授 寺見 陽子
土肥 伊都子（心理学コース代表）
鳥居 さくら
藤本 浩一
待田 昌二

准教授 久津木 文

非常勤講師 若栄 徳彦

※心理学コースのゼミ担当教員となり得るのは、心理学コースの「心理学特別研究」担当教員のみである。

心理学専攻代表

久津木 文

心理学専攻教務担当

黒崎 優美

大学院共同研究室

■履修について

- 修了要件・単位履修方法

- ①必修科目4単位。
- ②選択必修科目の分類A、B、C群から、計20単位。
- ③上記①、②の24単位を含み、合計32単位以上を修得しなければならない。
- ④これに加え、必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。

■修士論文について

- ・修士論文指導は、「心理学特別研究」において行う。具体的な指導方法については、指導教員に聞くこと。
- ・7月下旬～8月上旬には、修論中間報告会が行われる。発表はM2であるが、院生は全員出席のこと。
- ・修士論文執筆後、公聴会により審査を行う。修論そのもののみならず、公聴会における発表と質疑応答も、論文評価の対象となる。なお、公聴会も、院生は全員出席すること。

(3) 【臨床心理学コース・心理学コース】 共通

■その他

- 心理学専攻大学院生の院生研究室は、1312である。

- 学部授業の聴講願いは、履修登録期間内に教務課から「(大学院生が学部科目を聴講する場合) 聴講願」の書類を受け取り、授業担当教員の署名を受けた後に、教務課へ提出すること。

- アンケートなどの大量印刷物は、印刷ができるまでに最低1週間かかるので、1週間前までに心理学共同研究室へ持参し、依頼すること。その際、そのまま印刷すれば良い形にしておくこと。
なお、印刷代金について、片面1,000枚（両面の場合は500枚）以上は料金が発生する。
- 授業のレジメなどのコピーは、各自のコピーカードで行うこと。